幼児の他者感情理解と感情的視点取得の発達

○鄭牙源¹、上原泉²

(¹お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・²お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所)

キーワード：幼児期、感情理解、言語発達

Development of emotion understanding and emotional perspective taking in early childhood

Awoun Jung¹ and Izumi UEHARA²

(¹²Ochanomizu University)

Key Words: Child, Emotion understanding, Verbal development

目 的

幼児の他者感情理解を検討した先行研究は、主に「表情刺激に基づいた感情理解」「状況に基づいた感情理解」「感情的視点取得課題」の3つの課題を用いている。しかし、これまで、それぞれの感情理解課題において、手がかりとなる刺激や対象児の年齢など相違点が多く、それらの課題間の発達の関係性は不明であった。

本研究では、この3種類の課題を同じ幼児に実施することで、幼児期における他者の視点に基づいて感情を理解する能力、すなわち感情視点取得の能力が、感情識別能力との関係で、月齢や言語発達の度合に応じてどのように発達していくのかを調べることを目的とした。表情識別課題は既に年少児でも発達しており、3つの年齢群間で有意差はみられないが、感情ラベリング課題、感情的視点取得課題では年齢差と言語発達差がともにみられ、感情ラベリング課題のほうが正答率が高いのではないかと仮説をたてた。

方 法

都内のある幼稚園に通う3～6歳の幼児67名(男児39名、女児28名；平均月齢59ヶ月、SD=11.19)を対象とした。表情刺激に感情語をマッチングさせる表情識別課題と、登場人物の心的状況を表現している感情語を選択させる感情ラベリング課題(栢田, 2014)、真の感情と偽りの感情を区別し理解できるかを検討する感情視点取得課題(Lane, Wellman, Olson, LaBounty, & Kerr, 2010; 石黒・榎本・山上, 2015)を行った。導入課題としてPVT-R語彙発達検査を行った後、表情識別課題、感情ラベリング課題、感情的視点取得の課題の順に実施した。参加児が実験に参加しているすべての過程は、保護者と園の同意のもと、ビデオカメラで撮影された。

結 果

年齢別にPVT-R語彙発達検査、表情識別課題、感情ラベリング課題、感情的視点取得課題の4つの課題得点に対し、年齢を独立変数とした1要因分散分析を行った(Table1)。その結果、年少児、年中児、年長児の年齢の間でPVT-R語彙発達検査得点に有意な差が見られた($F(2, 64) = 28.63, p < .01$)。多重比較の結果、年少児より年中児と年長児、年中児より年長児で有意に高い得点であった($p < .05$)。また、感情ラベリング課題で3つの年齢間で有意な差が見られた($F(2, 64) = 12.17, p < .01$)。年少児より年中児と年長児で有意に高い得点であった($p < .05$)。しかし、年中児と年長児の間で有意な差はみられなかった。感情的視点取得の課題でも年齢間の有意な差が見られた($F(2, 64) = 3.93, p < .05$)。多重比較の結果、年少児より年長児で有意に高い得点であった($p < .05$)。

また、性別を独立変数とした1要因分散分析の結果、感情的視点取得の課題のみで女児が男児より有意に高い得点であることが示された($F(1, 65) = 5.72, p < .05$)。

言語発達の影響を検討するため、言語発達の平均得点を基準に高群と低群を分け、 t 検定を行った。その結果、言語発達の高群と低群の間で有意な月齢差が見られた($t(65) = -5.91, p < .01$)。表情識別課題で言語発達の高群と低群の間で有意な差が見られ($t(65) = -2.25, p < .05$)、ラベリング課題($t(65) = -5.37, p < .01$)と感情的視点取得課題($t(65) = -3.291, p < .01$)においても言語発達の高群と低群の間で有意差が見られた。

	年少		年中		年長		F	p	多重比較
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差			
PVT-R	12.40	6.20	19.55	7.78	30.16	9.22	28.63	.000	年少>年少** 年少>年中** 年中>年少** 年中>年中** 年長>年少** 年長>年中** 年長>年少**
表情識別	11.40	1.05	11.77	.53	11.68	1.30	.96	.387	n.s.
ラベリング	6.85	1.90	8.55	2.20	10.00	2.24	12.17	.000	年少>年少** 年少>年中** 年中>年少** 年中>年中** 年長>年少** 年長>年中** 年長>年少**
AR-EU	3.50	3.14	4.64	2.99	6.76	5.17	3.93	.025	年少>年少** 年少>年中** 年中>年少** 年中>年中** 年長>年少** 年長>年中** 年長>年少**

注. ** $p < .05$

考 察

分析結果について、本研究の仮説と照らし合わせながら考察する。感情ラベリング課題と感情的視点取得課題の両方で、3つの年齢群の間に有意差が見られた。また、すべての年齢群において感情的視点取得課題より感情ラベリング課題でより高い得点を得たことが示されていることから、感情理解と感情的視点取得は両方とも年齢が上がるとともに発達し、感情的視点取得より感情理解が先行して発達するという仮説は支持されたといえる。

言語発達との関連については、PVT-R語彙発達検査の得点と3つの年齢群の間で有意な差が見られたことから、年齢が上がるとともに言語発達が進むことがまず確認できた。また、すべての感情理解課題において、言語発達の低群より高群でより高い得点を示したことから、幼児の他者感情理解の課題は言語能力とともに発達していくことが示唆された。

一方、仮説にはなかった、感情的視点取得の課題のみで有意な性差が見られた。子どもの感情的視点取得の発達には性別による向社会的行動の違いなど、他の要因の影響がある可能性が考えられる。今後の研究では、他者感情理解の発達に影響を与える他の要因の検討が必要である。

引用文献

- 石黒良和・榎本玲子・山上精次. (2015). 幼児の感情的役割取得と対人的問題解決から予測される対人行動. *専修人間科学論集. 心理学篇*, 1-14.
- Lane, J. D., Wellman, H. M., Olson, S. L., LaBounty, J., & Kerr, D. C. (2010). Theory of Mind and Emotion Understanding Predict Moral Development in Early Childhood. *British Journal of Developmental Psychology*, 28, 871-889.
- 栢田恵. (2014). 幼児期における感情の理解と表情表現の発達. *発達心理学研究*, 25, 151-161.